具体的な活動内容

町内でのあいさつ、児童の見守り・声かけ、少年少女への声かけなど、地域の人々に積極的に声をかけ、地域を見守っていることをアピールしましょう。なお、パトロールは必ず複数人で実施します。

場所の選定

パトロールにあたっては、犯罪や事故が発生しやすい危険な場所などを選定します。

- 空き巣などの犯罪が発生している場所
- 児童の通学路や子供が遊ぶ公園
- 人の目が届いていないと感じさせる場所

など

有事の対応

不審者や不審車両を発見した場合

警戒対象の特徴をできるだけメモします。行動や態度に不自然な点を感じたら、迷わず110番通報してください。

パトロール中に事件や交通事故を目撃した場合

人命救助を最優先に、速やかに警察、消防へ通報してください。場所を伝える時は電柱や建物などの住所表示、町名を目安にし、番地が分からない場合は交差点の名称や標識、信号機、電柱などに書かれた管理番号などを伝えます。

保護が必要な人を発見した場合

110番通報した後、警察官が来るまでは要保護者から目を離さず、話し相手になるなど、一時的に見守ります。

問い合わせ先　警視庁生活安全総務課　(03)3581-4321

自主防犯パトロールの実施方法

安全で安心に暮らせるまちをつくる

自主防犯パトロールは、地域の住民が自ら、地域ぐるみでまちの安全を見守っているとアピールすることで、犯罪者に「見られている」「通報される」という意識を与え、大きな犯罪抑止効果を生み出します。一人でも多くの市民が、できることから一歩ずつ防犯活動に参加することで、「安全で安心に暮らせるまち」の実現につなげていきましょう。

東京都／警視庁

自主防犯活動の目的

自主防犯活動は、「犯罪が起きにくい環境づくり」「地域住民の防犯意識を高める」ことが目的です。初めから「犯罪を防ぐ」と身構えることなく、町内でのあいさつ、地域の人々への声かけなど、できることから始めましょう。

実施体制と計画

関係各所との連携

警察、町会、商工会などとの連絡会議を定期的に開催し、危険箇所や不審者の目撃情報を共有することで、パトロールの実効性が高まります。
特に、警察と緊密に連携を取って実施計画を作成することで、防犯パトロール活動が、より効果的、効率的で安全なものとなります。

実施計画の作成

皆さんが参加しやすい日時や場所を選び、無理なく活動しましょう。パトロールにあたっては、警視庁防犯アプリ「デジポリス」や「メールけいしちょう」を活用したり、児童の通学時間等に合わせてあらかじめ日時やコースを決めるなど、実施計画を立てた上で実施します。

実施体制

責任者を決め、その指揮の元に集団で行動します。トラブルや緊急事態が発生した場合に、援護や110番への連絡ができる体制を整えましょう。

様々な実施方法

徒歩による巡回パトロールの他にも様々な方法があります。それぞれの状況に合わせて、一歩ずつ活動していきましょう。

活動の準備

服装の例

昼夜を問わず目立つ服装

ビブス、腕章などを揃える

パトロール隊員であることをアピールします

携行品

1. スマートフォン、携帯電話
2. 警笛
3. 防犯ブザー
4. 運転免許証
5. メモ帳
6. ボールペン
7. 懐中電灯（夜間の場合）

※凶器となるものは携行できません。
例：特殊警棒、催涙スプレー　など

活用ツール

防犯アプリ「デジポリス」

地図上で犯罪発生情報や不審者情報などを表示したり、パトロールを実施した日時、軌跡を記録できるアプリ。

ダウンロード→　iOS 版　Android 版

メールけいしちょう

犯罪発生情報や不審者情報、特殊詐欺のアポ電情報を配信。

login@mail.keishicho.metro.tokyo.jp

上記のアドレス又は左の QR コードから読み込んだアドレス宛てに空メールを送信し、メールに記載された操作案内に従って登録手続をします。